

カイトック クルーズターミナル 建設工事



五洋建設株式会社 カイトッククルーズターミナル工事事務所 所長

田口治宏

Haruhiro Taguchi



鋼管杭打設
(2010年8月23日撮影)



全景 (2011年8月7日撮影)



上部工 (2011年10月21日撮影)

プロジェクト紹介

香港政府が三兆円を超える予算を投じて進める十大インフラプロジェクトの一つ、旧カイトック国際空港跡地再開発。当社はこのうち大型クルーズ客船が停泊するための棧橋および護岸建設を担当しています。政府は当空港跡地利用として、ここを世界最大級のクルーズ客船が停泊できる岸壁とすべくクルーズターミナル建設を計画しました。完成すれば、総トン数二二万トンの客船が二隻同時に停泊できる巨大ターミナルとなります。また、後背地には商業施設やホテルなどの建設が計画されており、この再開発を通じて将来的に香港が「クルーズ観光のハブ」となることが期待されています。

工事所見

九龍半島からビクトリア湾へ南東方向に突き出す形の旧カイトック空港跡地。私たちは、この旧空港の既存護岸を後ろへずらし、その場所に長さ八五〇m、幅二五・五mの棧橋を新たに建設し、客船が停泊できるように泊地浚渫をおこないます。工事はまず、既設護岸上で二二七本の鋼管杭を打設。この鋼管杭それぞれに鉄筋コンクリートを充填し、棧橋を支える杭を築きました。その後既設護岸を陸と海から掘削し、



完成パース

工事のトピックス

新設護岸を建設。新設護岸ができ上がったエリアから棧橋の上部コンクリートを設置します。二〇〇九年十一月に工事を開始して二年余り経過し、鋼管杭打設および鉄筋コンクリートの充填は完了。現在は新設護岸の敷設および上部コンクリートの設置を開始しています。二〇一三年十二月の完成に向け工事は佳境を迎えています。

前述の通り、当工事は棧橋の構造体となる鋼管杭の打設を既設護岸掘削に先んじて行いました。これは、既設護岸の被覆石や栗石が、かなり深くまで存在していたため、杭打設の前に正確な位置でこれらの被覆石等をあらかじめ除去するのが良いと考えたためです。この手順では、既設護岸掘削中に生じる杭の動きや、杭と杭の間の土砂を掘削する作業に手間がかかることが懸念されましたが、入念に杭の動きをモニタリングしながら土砂掘削を進め、工事は順調に推移しています。陸上での鋼管杭打設がスムーズに完了したことで、最終的な工期短縮を期待できます。

発展する交通インフラ

現在香港では、二〇〇七年に発表された十大インフラプロジェクトをはじめ多くの建設工事が進められています。実際、車などで移動していると、いたるところで多種多様な工事が行われている事に気がつきます。中でも交通インフラ整備では、香港―広州間を四八分で結ぶ高速鉄道の建設や、香港内の地下鉄延伸など、香港内や周辺経済域での人や物の流れを円滑にするためのプロジェクトが数多く手掛けられています。香港はIMD（国際経営開発協会）が毎年発表する国際競争力ランキングで二〇一一年に一位になるなど、すでに国際社会での競争力はトップクラスと評価される地域ですが、現在進められているインフラ整備を通じて、今後さらに競争力ある効率都市として発展を続けるでしょう。

世界で活躍する
日本の建設企業